

足立区立古千谷小学校
校長 相原 和子様

足立区立古千谷小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 緑川 勝彦

令和4年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

- ・重点的な取組事項「学力の向上」については、国語、算数2科目の学校平均が「通過率78.8%」であり、目標としていた「通過率80%」に到達しなかった。算数に課題が見られ、再度学力向上の具体策を検討し、実施する必要がある。
- ・読書習慣の定着を図るために「読書マラソン」などの取組を行ったが、達成者は58%だった。ただ、実際は読書を行えているが、記録が確実に行われていない児童もいる。
- ・小中連携については、コロナ禍で一部の授業公開は中止となったが、授業公開と指導案検討を通して、授業改善に努めた。さらに指導方法の工夫について連携を進めてほしい。
- ・体力向上については、新型コロナウイルス感染症対応のため、持久走や縄跳びなどの活動内容を変更して実施した。「たくさん運動したり、遊んだりして体を動かしている」の質問に肯定的回答をした児童が78.9%で、前年度より上回った。多様な動きを育む取組として、「こちランド」を実施できたことが良かった。また、投力向上のために第3学年で投げ方教室、4学年で野球教室を実施するなど、手立てを講じたことは評価できる。
- ・家庭学習について、70%の児童ができておりである。リモート学習について、教員は児童・保護者に丁寧に支援をしているが、家庭で保護者の支援を受けられる児童とそうでない児童の学習状況に差がある。児童の特性や家庭のサポートの問題等の課題に対し、やり方や内容を工夫してほしい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・今年度は、開かれた学校づくり協議会主催で古千谷フェスタを実施でき、盛況だった。引き続き、地域との一層の連携、保護者の積極的な参画をお願いしたい。
- ・舎人地区クリーン作戦は、3年ぶりの開催だったが、青少年委員を中心として開催することができた。引き続き、地域との一層の連携、保護者の積極的な参画をお願いしたい。
- ・「コミュニティ・スクール」予算で作成した「読書マラソンカード」は、取組を進める上で必要であった。次年度は、低学年は記入がしやすい仕様に変更することを検討、工夫をして実施して欲しい。
- ・保護司による朝の挨拶運動を実施し、登校の見守りを兼ねた挨拶の推進を図れたことは評価できる。
- ・漢字検定は、3回開催できた。試験官をする人が管理職と開かれた学校づくり協議会会長のみだったため、次年度はより一層の協力を求めたい。
- ・家庭でも読書の推進を図るとともに、読書マラソンカードへの記入の声かけをお願いしたい。
- ・保護者も家庭学習を支援する意味で、できる限り家庭での声かけをお願いしたい。

3 その他

- ・足立区コミュニティ・スクールとして、より一層地域協創の取組を進めていってほしい。